



展覧会概要

祭りは「^{まつ}祀る」と語源を同じくし、^{くもつ}祈りや供物を捧げる宗教的行事が本義です。しかし次第にその華やかさや賑やかさが強調され、人々の眼を楽しませる娯楽ともなりました。祭りといえば、多くの人々が集う、賑やかで楽しい祝祭が注目され、「お祭り騒ぎ」という言葉も生まれました。「祭礼図」には、趣向を凝らした風流と呼ばれる飾りや造り物、人々の仮装が見た目にも美しく描かれ、祭礼図自体が強い祝儀性を帯びています。豊国祭礼や津島祭礼・東照宮祭礼など江戸時代の祭礼図を中心に、その豊潤な世界を紹介します。

展覧会基本情報

- ◆展覧会名 企画展 祭りの世界—風流と仮装—
- ◆会場 名古屋市蓬左文庫展示室
- ◆会期 2022年7月24日(日)～9月11日(日)
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(但し、8月15日(月)は臨時開館)
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円
※特別展「お宝のうら！なか！そこ！」展と共通
※20名様以上の団体は一般1,200円 高大生600円 小中生400円 ※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆出展作品数 35件
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫
- ◆特別協力 凸版印刷株式会社・立正大学
- ◆協力 名古屋市交通局

取材について

2022年7月23日(土)

プレス内覧会：午後1時30分～3時 受付：午後1時15分 会場：徳川美術館 講堂

展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材。

特別展「お宝のうら！なか！そこ！」のプレス内覧会も同時に開催いたします。

- ・内覧会開催日に限らず、取材は随時承ります。
- ・動画撮影につきましては開館時間外も対応いたしますので、ぜひお気軽にご相談ください。

第一章 祭りのにぎわい 華麗なる風流

祭りといえ、今日、多くの人がにぎやかな祝祭を思い浮かべることでしよう。もともと厳かな神事や法会が中心であった祭りにおいて、その華やかさや娯楽性が注目されるようになったのは、平安時代中期とされています。疫病が蔓延した平安京では、疫病はすべて御霊(疫神・怨霊)の所業と考えられ、人々は衣装や持ち物を華やかに飾り立てて歌い囃し、踊り歩くことで、これらを鎮めようとした。華やかな祭りは観衆を呼び、さらに人々の目を意識して趣向を凝らす「風流」が競われました。

近世に入り、祭礼の風流はいっそう華やかさを増し、絵画においても、美しく豪華で、時には奇抜で「絵になる」情景が描かれました。ここでは、祭礼図のなかでも特に華麗なる風流が描かれた作品を紹介します。

「風流」をひもとく

「風流」という言葉は、「ふうりゅう」と読んで、はじめ「雅びやかなもの」「風情あるもの」の意味で使われていましたが、平安時代後期から賀の祝いや歌合・祭礼・行楽といったハレの場で、会場の調度や参加者の衣装、乗り物などを華美に飾り立てることを「風流」と呼ぶようになりました。その飾りのなかで、特別に人目をひいたのが、贅沢な材料を使ってつくられた美しい「造り物」でした。祭礼の派手な衣装や仮装、笛や太鼓などのお囃子や歌を伴って集団で踊る「囃子物」も風流と呼ばれ、時に朝廷から禁令が出るほどに熱を帯び、華美を極めました。



重要文化財
豊国祭礼図屏風
岩佐又兵衛筆
(7/24~8/23 公開)



▲重要文化財 豊国祭礼図屏風 (左隻部分)

第二章 家康を祀る 東照宮祭

元和二年(一六一六)四月十七日に駿府城で歿した徳川家康は、遺言によって久能山に埋葬され、「東照大権現」という神として祀られました。さらに翌年、一周忌を期して、日光山に改葬されました。日光東照宮祭礼の神輿渡御行列は、改葬にともなう久能山から日光への行列を模して始まったといわれ、百物揃・千人武者行列と呼ばれる壮大な行列が最大の見どころです。

江戸時代の幕藩体制下で、東照宮が各地に創建され、東照宮の祭礼が盛大に行われるようになりました。周辺の都市祭礼にも影響を与え、全国各地に長大で華美・華麗な祭礼行列が登場しました。



津島社祭礼図屏風▶
(左隻)
(8/24~9/11 公開)

第三章 尾張名古屋の祭り

江戸時代、尾張徳川家の城下町として栄えた名古屋では、名古屋東照宮の東照宮祭をはじめ、天王社の天王祭・若宮八幡社の若宮祭が盛大に行われ、これらは名古屋三大祭と呼ばれました。名古屋とその近郊ではからくり人形を使ったダイナミックな山車が登場する一方で、中世的な形態をとどめた大山や車楽も残り、多彩な都市祭礼が展開しました。梵天祭や御鍛祭など、数十年に一度の割合で流行した祭りでは、より自由な発想で奇抜に飾り立てた造り物や仮装などが登場し、人々を熱狂させました。



▲名古屋東照宮祭礼図巻 総巻 森高雅筆

第四章 江戸の天下祭

将軍御膝下の大都市・江戸では、将軍家の産土神である山王権現(現・日枝神社)と江戸の総鎮守であった神田明神(現・神田神社)の二つの祭礼が行われ、ともに「天下祭」と呼ばれました。氏子各町の出ず山車や付祭と呼ばれる華麗な祭礼行列が江戸城内に入り、将軍の上覧に供されたからです。趣向が凝らされた付祭りでは、朝鮮通信使や象の曳きものなど、近世特有の風流が登場しました。二つの天下祭は、根津権現(現・根津神社)の祭礼とともに江戸の三大祭に数えられ、江戸市中の最大の娯楽として、人々の目を楽しませました。



御鍛祭真景図略 第二冊
小田切春江転写
名古屋博物館蔵

展覧会関連イベント

◆VRで楽しむ豊国祭礼図屏風

豊国祭礼図屏風の高精細画像を基に凸版印刷株式会社が制作したVRをタブレットで自由自在に拡大して鑑賞できます。タブレットの貸出は無料です。

期 間： 2022年7月24日（日）～9月11日（日）

貸出・返却場所： 蓬左文庫ガイダンスホール内インフォメーション

使用エリア： 蓬左文庫ガイダンスホール

特別協力： 凸版印刷株式会社・立正大学

◆学芸員の見どころトーク「祭りの世界－風流と仮装－

講 師： 吉川美穂（当館学芸部部长代理）

日 時： 2022年8月3日（水）午後2時～2時30分（開場：午後1時30分）

会 場： 徳川美術館 講堂

定 員： 各60名 当日会場にて先着順・入館者聴講自由

参加費： 無料（入館料別途要）

◆土曜講座「仮装天国－祭りの世界－」

講 師： 吉川美穂（当館学芸部部长代理）

日 時： 2022年8月20日（土）午後1時30分～（開場：午後1時）

会 場： 徳川美術館 講堂

定 員： 事前申し込み・先着60名（満席のため申込締め切り済）

受講料： 800円（入館料別途必要・空席がある場合のみ当日先着にて受付）

視聴者・読者プレゼント提供

企画展「祭りの世界－^{ふりゆう}風流と仮装－」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。※こちらのチケットで特別展「お宝のうら！なか！そこ！」もご観覧いただけます。



お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



徳川美術館
The Tokugawa Art Museum



〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017
TEL：052-935-6262（10時～17時受付）
052-935-8222（営業時間外受付）
FAX：052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp



企画展 祭りの世界—^{ふりゅう}風流と仮装—

広報画像申請書 使用期間：～2022年9月11日



No.1
重要文化財 豊国祭礼図屏風 左隻
岩佐又兵衛筆
江戸時代 17世紀
徳川美術館蔵
公開期間 7月24日～8月23日

No.2
重要文化財 豊国祭礼図屏風 右隻
岩佐又兵衛筆
江戸時代 17世紀
徳川美術館蔵
公開期間 7月24日～8月23日



No.3
重要文化財 豊国祭礼図屏風 左隻部分
岩佐又兵衛筆
江戸時代 17世紀
徳川美術館蔵
公開期間 7月24日～8月23日

No.4
津島社祭礼図屏風 六曲一双の内左隻
江戸時代 18世紀
岡谷家寄贈
公開期間 8月24日～9月11日



No.5
名古屋東照宮祭礼図巻 総巻
森高雅筆
江戸時代 文政5年(1822)
徳川美術館蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL: 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX: 052-935-6261

担当: 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp